

平成20年度 研究戦略プロジェクト事業 研究成果報告書

平成21年6月30日

公立大学法人横浜市立大学
理事長 様

平成20年度 研究戦略プロジェクト事業 (K20026) で行った研究成果等は下記のとおりです。

記

1 研究者情報	研究代表者氏名 (所属・職位)	山根 徹也 (国際総合科学部・准教授)				
	研究室 Tel・Fax				Fax	
	E-mail アドレス					
2 事業情報	新規・継続の分け	新規				
	研究費の区分	共同研究推進費 (文化・教育 (文系))				
	研究課題名	世界の中の日本を理解するために最低限必要な近現代史教育の教科書作成				
	研究実施期間	平成20年7月1日 ~ 平成21年3月31日				
	研究ユニットの構成 <small>※研究代表者も含む ※研究計画書と相違のないようにご注意ください。</small>	所属名・企業名等	役職名	氏名	役割	
		本学国際総合科学部	准教授	山根徹也	研究代表者	
		同上	教授	上杉忍	研究分担者	
		同上	教授	永岑三千輝	研究分担者	
		同上	教授	金子文夫	研究分担者	
同上		准教授	乙坂智子	研究分担者		
研究経費	決定額 2,300,000 (円)					
	決算額 (円)					
	決算額内訳 (円)	設備備品費	消耗品費	国内旅費	謝金	その他
3 研究概要						
<p>大学1年次学生を対象にした、日本史と世界史を融合した近現代史の授業のための教科書を、本学歴史系教員と県内大学および高校の教員の協力のもとに作るための共同研究会の開催と教科書の執筆。</p>						

4 研究成果

※研究成果については、2,000字程度で記入して下さい。(絵、図入りも可)

※地域貢献促進費の方は課題提案者に提出する報告書(必須)をご提出頂きますので、この欄は記載しないで結構です。その他の方は別紙を用意せず、この枠の中に記入するようにして下さい。(枚数は問いません)

今年度の我々の共同研究の中心は、2008年度後期実施の講義「歴史から今を知る」の授業実践と、その企画のための共同討議、および授業経験についての交流とであった。同講義の担当者は上杉忍であるが、他のプロジェクト研究メンバーも交代で授業を行った。毎回の授業においては、常に担当教員以外に複数の教員が出席し、授業内容を学ぶと同時に、担当教員に対して適宜助言などを行った。授業の概要は下記のとおりである。

第1回 ガイダンス(担当:上杉)

第2回 序論—近代世界の成立とグローバリゼーションの諸段階(上杉)

第3回 ヨーロッパ覇権以前の「世界」(乙坂)

第4回 大航海時代—グローバリゼーションの第1段階(山根)

第5回 前近代の「日本」(松本)

第6回 産業革命—パクス・ブリタニカの時代(1)(山根)

第7回 市民社会と国民国家—パクス・ブリタニカの時代(2)(山根)

第8回 日本の開国(本宮)

第9回 帝国主義のはじまり(山根)

第10回 帝国主義とアジア(金子)

第11回 二つの世界戦争とソ連「社会主義」の実験—新興帝国主義諸国(日・独・伊ファシズム諸国)と旧帝国主義諸国の相克の狭間で—(永岑)

第12回 第3世界の模索/植民地主義・人種主義批判の台頭(上杉)

第13回 高度経済成長と先進国社会の変貌(上杉)

第14回 グローバリゼーションを考える(金子)

第15回 試験(全教員が出題・採点)

企画と経験交流のため、および下記のシンポジウムの実施準備のために数次の会議を催した。

さらに、当初の計画どおり、外部からパネリストに出席を要請してシンポジウムを行った。実施日は、2009年1月21日、場所は本学瀬戸キャンパスであり、概要は下記のとおりである。

シンポジウム「歴史から今を知る」 大学生向け一般教育としての世界史について

時間 14時30分より18時まで。

報告

1) 世界史教育のコンセプト(上杉)

2) 高校の現場をふまえてのコメント(外部から小林克則氏ほか)

3) コメント(若手高校教員から)

これらの成果をふまえて現在も、2009年度も企画課題の達成に向けて共同作業を続けているところである。

5 研究成果の活用(予定)

例)平成22年度 科学研究費補助金(基盤S)に申請予定

例)第〇会 〇〇学会に論文発表予定

例)研究成果が横浜市〇〇事業に活用され、当該事業のPRイベントが開催された際に広報チラシ等に「横浜市立大学 研究戦略プロジェクト事業」との関連を記載した。

2010年度において、大学生向け教科書『歴史から今を知る—大学生のための近現代世界史』(仮題)として出版する予定である。

※ページ数は増えても構いません。

以上